

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

(1) 新学習指導要領に関わる理論研究-5 で述べたとおり、新学習指導要領解説には、授業改善を進める際の配慮事項として、次のような文言があります^④。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも 1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。

(※太字、下線は本研究委員会による。)

そこで、本研究委員会では授業の質的改善に向け、単元における下線部のような場面について、授業を振り返る際の観点を以下のように 4 つ設定しました。4 つの観点は、おおむね単元の流れに沿うように、便宜上、それぞれ A・B・C・D と記号で示しています。

〈授業を振り返る際の観点 (A・B・C・D)〉

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面

A (単元を見通す)

児童に、学習のゴールまでの見通しを持たせているか。
学習への目的意識や必要性を持たせているか。

D (単元を振り返る)

児童に、自身の学びや変容を自覚させる振り返りをさせているか。

観点 A と観点 D は、児童自身が目的や必要性を意識し、見通しを立てて学習に取り組んだり (A)、学習を振り返る中で、自分自身の学びや変容を見取り、学びを自覚したり、説明したりする (D) 「主体的な学び」と関連しています。観点 D における振り返りが、次の学びの見通し (A) にもつながっていくと考えられます。

対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面

C（他者と対話する）

友達や教職員、地域の人など、他者とのやりとりを通して
児童の考えを広げたり、深めたりさせているか。

観点Cは、児童同士の協働、教職員や地域の人との対話、作者・筆者の考え方を手掛かりに考える中で、自分の考えを広げたり深めたりする「対話的な学び」と関連しています。形式的に、話し合い活動等を取り入れるだけではなく、そこに考えの広がりや深まりが生まれるような工夫が必要だと考えます。

学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面

B（自ら考える）

課題解決に向けて、児童に自ら考えさせているか。
課題を、児童に自ら設定させているか。

観点Bは、「言葉による見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自分の考えを形成して表したり、思考の過程をたどって考えを再構築したりする「深い学び」と関連しています。児童が考える際に必要となる、基礎的・基本的な知識及び技能については、教師がしっかりと教え、習得させる場面を適切に設定することが必要です。本研究においては、このことを前提に、新学習指導要領で求められている、能動的に学び続けることができる児童の育成に向けて、「児童が考える場面」に焦点化することとしました。

〈児童の姿を指標としたステップ（①・②・③）〉

授業における児童の姿は、教師の指導の結果とも言えます。そこで、児童の姿を指標として自身の授業の質的改善を図るために、観点A～Dそれぞれについて、児童の姿で3つの段階を示しました（次頁表1）。児童の姿であるステップが、①→②→③と上がっていくことで、育成を目指す資質・能力を身に付けさせることができると考えます。

なお、観点Cのステップについては、児童の発達の段階によっても目指す姿が異なると考えられます。そこで、新学習指導要領に示されている各学年の目標及び内容も踏まえて、各学年で目指すべきステップを次のように考えました。ただし、ここに示した学年はあくまでも目安であり、児童の実態に即して低学年や中学年でもステップ③を目指すことがあると考えます。

観点C（他者と対話する）で目指す姿

- 低学年・・・ステップ① 自分の感想や意見を持って、相手に伝えている。
- 中学年・・・ステップ② 感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。
- 高学年・・・ステップ③ 感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気づき、自分の考えを確かなものにしたり、見直したりしている。

表 1 単元において授業を振り返る観点とステップ（児童の姿）

観点	ステップ①	ステップ②	ステップ③
A 学習を見通す	本時の めあて に沿って、 1 単位時間のゴール を見通している。	単元の始めに提示された 学習計画 に沿って、 本時の学習や単元のゴール を見通している。	単元の始めに提示された 学習計画 に沿って、 身に付けるべき力を意識 しながら、単元のゴールを見通している。
B 自ら考える	課題を解決するために、 教師の発問 に対する 答え を考えている。	課題を解決するための 方策や道筋 について、考えている。	課題の解決に向けて考えた 方策や道筋 について、学習を進める中で、 修正 したり 応用 したりしている。
C 他者と対話する	(低学年) 自分の 感想や意見 を持って、相手に伝えている。	(中学年) 感想や意見を伝え合う中で、 共通点や相違点、互いのよさ 等に気付いている。	(高学年) 感想や意見を伝え合う中で、 共通点や相違点、互いのよさ 等に気づき、自分の 考えを確かなもの にしたり、 見直し したりしている。
D 学習を振り返る	できるようになったこと や 分かったこと について、振り返っている。	できるようになったこと や 分かったこと について、 理由や根拠 を挙げながら、振り返っている。	できるようになったこと や 分かったこと について理由や根拠を挙げながら振り返り、 次の学びに生かそう としている。

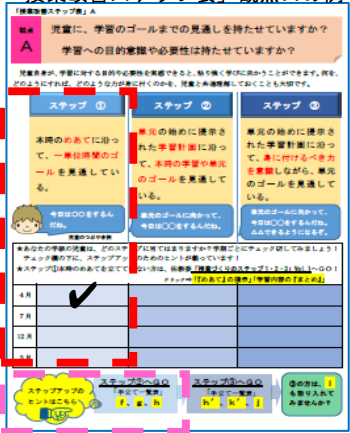
学級の児童は、ステップ①～③のどれに当てはまるでしょうか。次頁以降、観点A～Dそれぞれについてチェックできる「**授業改善ステップ表**」を載せています。年度始めと学期ごとに、自身の授業を振り返ってみましょう。

また、チェック欄の下には、ステップアップするための手立てを整理した「**手立て一覧表**」も用意しています。

先生方の授業改善にお役立てください。



「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」を用いた授業改善の手順


授業改善の流れ	教師の意識（観点Aの例）	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用方法
<p>児童の実態把握</p> <p>↓</p>	<p>授業改善のために、何をすればいいだろう。まずは、「授業改善ステップ表」で、学級の児童の姿を振り返ってみよう。</p>	<p>1 「授業改善ステップ表」観点A～Dについて、<u>当てはまる児童の姿のチェック欄いずれかに</u>☑を付けます。チェックする際は、学級の半数以上の児童が達成できているかどうかを目安としてください。</p>
<p>授業の改善点と目指す児童の姿の洗い出し</p> <p>↓</p>	<p>観点Aは、<u>今ステップ①かな</u>。ステップ②に示された姿を見ると、単元のゴールを見通させていなかったことが分かるよ。じゃあ、一体どうしたらいいのだろう…。</p>	<p>「授業改善ステップ表」観点Aの例</p> 
<p>手立てを取り入れた授業実践（単元）</p> <p>↓</p>	<p>ステップ②に向けたステップアップの手立ては、f、g、hね。「手立て一覧表」で確認すると、「児童と一緒に学習計画を立て…学習のゴールやプロセスのイメージをつかませる」というgの手立てを取り入れてみたい。</p>	<p>2 <u>チェック欄の下には、ステップアップに向けた手立てを示しています</u>。クリックすると、「手立て一覧表」が開くので、対応させてご覧ください。</p>
<p>授業改善に向けて取り入れた手立ての検討</p> <p>↓</p>	<p>この単元では、gの手立てを取り入れたことで、教師である自分自身が、単元を見通すことにもつながった。ただし、ゴールのイメージをより具体的につかませるために、教師がモデルを示すべきね。</p>	<p>3 示された手立ての中から、必要と思われるものを選び、適宜応用しながら授業に取り入れてください。（次のステップに向けた手立てではなく、現段階のステップに当たる手立てが有効な場合も想定できます。）</p>
<p>〈次の単元〉</p> <p>↓</p>	<p>よし。次の単元では、gに加えてモデルを示すhの手立ても取り入れてみよう！</p>	<p>4 教師が授業改善を行う中で、児童の実態も変化していきます。1～3の手順を繰り返し、授業を見直し続ける中で、授業の質的改善が図られていきます。</p>
<p>児童の実態把握</p>	<p>※観点B～Dも同様の手順を踏みます。</p>	

日々の授業を不断に見直し続けることが大切です。

「授業改善ステップ表」 A


観点 A **児童に、学習のゴールまでの見通しを持たせていますか？**
学習への目的意識や必要性は持たせていますか？

児童自身が、学習に対する目的や必要性を実感できると、粘り強く学びに向かうことができます。何を、どのようにすれば、どのような力が身に付くのかを、児童と共通理解しておくことも大切です。

ステップ ①	ステップ ②	ステップ ③
本時のめあてに沿って、1 単位の時間のゴールを見通している。	単元の始めに提示された学習計画に沿って、本時の学習や単元のゴールを見通している。	単元の始めに提示された学習計画に沿って、身に付けるべき力を意識しながら、単元のゴールを見通している。
 今日は〇〇をするんだね。 児童のつぶやき例	単元のゴールに向かって、今日は〇〇をするんだね。	単元のゴールに向かって、今日は〇〇をするんだね。△△できるようになるぞ。

★あなたの学級の児童は、どのステップに当てはまりますか？学期ごとにチェック☑していきましょう！
 チェック欄の下に、ステップアップのためのヒントが載っています！
 ★めあての大切さについて、詳しく知りたい方は、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」へGO！
 クリック⇒『めあて』の提示「学習内容の『まとめ』」

4月			
7月			
12月			
3月			

ステップアップのヒントはこちら 

ステップ②へGO 「手立て一覧表」 f、g、h

ステップ③へGO 「手立て一覧表」 h'、k'、j

③の方は、i も取り入れてみませんか？

「授業改善ステップ表」 B

観点

B

課題解決に向けて、児童に自ら考えさせていますか？

課題を、児童に自ら設定させていますか？

習得した知識や技能を活用し、問いを見いだして解決する学習を積み重ねていくことで、「生きて働く知識・技能」につながります。

ステップ ①

課題を解決するために、**教師の発問**に対する答えを考えている。

先生、何をしたらいいですか？

児童のつぶやき例

ステップ ②

課題を解決するための**方策**や**道筋**について、考えている。

学習のゴールに近づくために、こんなことをしてみよう。

ステップ ③

課題の解決に向けて考えた**方策**や**道筋**について、学習を進める中で、**修正**したり**応用**したりしている。

これまでのやり方では、うまくいかないぞ。どうしたらいいだろう。

★あなたの学級の児童は、どのステップに当てはまりますか？学期ごとにチェック☑していきましょう！
チェック欄の下に、ステップアップのためのヒントが載っています！

★発問中心の授業になりがちと思われる方は、「[授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2](#)」へGO！
クリック⇒「[教師の主な役割（コーディネート）](#)」

4月			
7月			
12月			
3月			



ステップ②へGO

「手立て一覧表」

k、**h'**、**l**、**m**

ステップ③へGO

「手立て一覧表」

h'、**l**、**n**、**o**、**p**、**p'**

「授業改善ステップ表」C

観点 C 友達や教職員、地域の人など、他者とのやりとりを通して
児童の考えを広げたり、深めたりさせていますか？

児童同士で協働したり、教職員や地域の人と対話したり、作者の考えに触れたりすることで、児童の考えを広げたり深めたりすることができます。形式的な報告会にならないような工夫が必要です。

ステップ ①
 (低学年)
 自分の**感想や意見を**
持って、相手に伝えている。

ステップ ②
 (中学年)
 感想や意見を伝え合う
 中で、**共通点や相違点、互いのよさ等**に気付いている。

ステップ ③
 (高学年)
 感想や意見を伝え合う
 中で、**共通点や相違点、互いのよさ等**に気付き、自分の**考えを確かなもの**にしたり、**見直**したりしている。



〇さんは、そう思ったんだな。

児童のつぶやき例

ぼくとは、ここが違うね。でも、いい考えだね。

なるほど。…だと思っていたけど、その理由からも、やっぱりそうに違いない。

★あなたの学級の児童は、どのステップに当てはまりますか？学期ごとにチェック☑してみましょう！
 チェック欄の下に、ステップアップのためのヒントが載っています！
 ★対話による考えの広がり、深まりについて詳しく知りたい方は、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」へGO！
 クリック⇒『書く活動』、『話し合う活動』の設定

4月			
7月			
12月			
3月			



ステップ②へGO
 「手立て一覧表」
q、q'、r、s、t

ステップ③へGO
 「手立て一覧表」
o、p、p'、r、u

「授業改善ステップ表」D

観点 D **児童に、自身の学びや変容を自覚させる**
振り返りをさせていますか？

1 単位時間や単元の終末で、振り返りの時間を設定していますか。児童自身が、学びや変容について説明、評価をすることは、学習意欲を高めたり、次の学びの礎につながったりします。

ステップ ①

できるようになったことや分かったことについて、振り返っている。

〇〇が、おもしろかったです。またしたいです。

児童のつぶやき例

ステップ ②

できるようになったことや分かったことについて、理由や根拠を挙げながら、振り返っている。

〇〇を△△したら、こんなことができました。

ステップ ③

できるようになったことや分かったことについて理由や根拠を挙げながら振り返り、次の学びに生かそうとしている。

この学習は、こんなことに役立ちました。次は、〇〇のときにも使ってみたいです。

★あなたの学級の児童は、どのステップに当てはまりますか？学期ごとにチェック☑していきましょう！
チェック欄の下に、ステップアップのためのヒントが載っています！

★学習の振り返りについて詳しく知りたい方は、「[授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1](#)」へGO！
クリック⇒「[授業の『振り返り』の設定](#)」

4月			
7月			
12月			
3月			



ステップ②へGO
「手立て一覧表」
v、w

ステップ③へGO
「手立て一覧表」
w、w'、x

(1) 新学習指導要領に関わる理論研究-7,8 に挙げた表 4 (「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善の手立て) の内容を「授業改善ステップ表」の観点 A・B・C・D に対応させて検討し直し、「手立て一覧表」を作成しました。

手立て一覧表				
	A (学習を見通す)	B (自ら考える)	C (他者と対話する)	D (学習を振り返る)
単 元 前	【年間を通して講じる手立て】 a 語彙を豊かにするための取組を日常的かつ継続的に取り入れることで、児童の思考を深めたり、活性化させたりする。 b 読書の機会を多く設定することで、多様な作者や筆者の考えに触れさせ、児童の思考を深めたり、活性化させたりする。			
	【単元に応じて講じる手立て】 c 当該単元に関わる児童のレディネスを把握することで、指導上の留意点を明らかにする。 d 学校行事や地域行事、他教科の年間指導計画と照合しながら単元配列を入れ換えることで、当該単元における指導事項を効果的に身に付けさせる。 e 当該単元に関わる基礎的な知識や関連する話題について、事前に児童へさりげなく提供することで、レディネスを調整する。			
	f 事前にリサーチした、児童の身近な話題や興味を踏まえて言語活動を設定することで、意欲を喚起する。 k' 学習課題で、何をどのようにすれば、どのような力が身に付くのかを児童と共通理解しておくことで、学	k 児童間の認識のずれや問いを洗い出すことで、学習課題を考えさせる。	q 児童が考えを整理したり、書き出したりする時間を確保することで、円滑な話し合いを促す。	

拡大します (A 3 版・2 枚)



こちらをクリック⇒

「手立て一覧表」

学級の児童の実態や単元の特性に応じて、ここに示している手立てから必要と思われるものを選び、適宜応用しながら授業改善にお役立てください。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』 平成 29 年 6 月 第 4 章 1